

文章表現指導再考 —JLCにおける実践を事例に—

伊集院郁子(東京外国語大学留学生日本語教育センター)

0. 講演の内容

①実践の紹介

- ・東京外国語大学留学生日本語教育センター(以下、JLC)の「1年コース」における文章表現の段階的指導(初級～中級を中心に)
- ・JLCでの「作文データベース」の構築

②ワークショップ

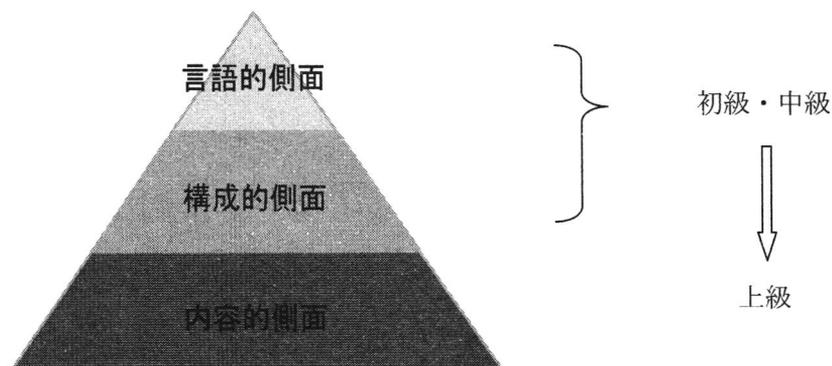
- ・「作文データベース」より、モンゴルの学生が執筆した作文を事例に文章表現指導を考える

1. 1年コースの概要

- ・大学学部への進学を目指す国費の留学生に対する1年間の予備教育コース
- ・学習者: 16か国、50名(2010年度) ※過半数がゼロスタートの学生
- ・学期: 春学期(初級)・秋学期(中級)・冬学期(上級)
- ・科目: 日本語、専門科目(人文社会科学系、自然科学系)、多文化コミュニケーションなど
- ・日本語主教材: 本センター編著『初級日本語』『中級日本語』『上級日本語』

2. 文章表現指導の全体像

■全体的な方針



■段階的指導の概要

表1：1年コース文章表現指導の概要（2010年度）

到達目標：レポートや論文で必要とされる論理的構成をもった文章が書ける			
	春学期	秋学期	冬学期（「総合日本語」へ発展）
主な教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 単に短文を連ねるのではなく、文章構成（3部）を意識して書く まとまりを持った文章を書くため、結束性を高める方策を知る 身近な事柄に関する事実文を書く 	<ul style="list-style-type: none"> よく知っていることがらについて順序立てて客観的な説明をする 抽象的な事柄を含む内容について論理的に自分の意見を述べる 文化的／社会的事柄に関する説明文と意見文を書く 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある事柄について文献などを調べ、客観的な根拠を挙げて主張を論理的に展開したり、考察を述べたりする 個人の専門や関心に応じて小レポートを書く
学習項目	原稿用紙の書き方、説明の順番、文脈指示詞、「は」の使用、前置きの「が」、説明の「のです」、連体修飾	分類、定義・説明、引用・要約、比較、理由・原因、図表の説明、意見の述べ方、意見文の構成、（書き言葉、記号、接続表現）	レポートの構成、テーマの絞り込み、文献検索、情報の分類と整理、根拠と主張の組み立て、題と小見出しの付け方、参考文献の書き方、PCでの日本語入力
題材	「自己紹介」、「わたしの部屋」、「日本へ来てから行った場所」、「わたしの友だち」、「わたしのしゅみ」、「大切なもの」、「私の紹介したい町」	「自国の教育制度」「夫婦別姓の是非」「早期英語教育の是非」「騒音問題」「新聞とインターネット」	各自の専門や関心に応じて、テーマを設定する
文体	丁寧体	普通体	普通体
字数	600字程度	800字程度	2000字～4000字程度
時数	45分（半コマ）×7回	45分（半コマ）×8回 課題作文2回（計1.5コマ）	180分（2コマ）×6回
評価	期末試験 50% 平常点 50%（計7回の課題作文点）	期末試験 70% 平常点 30%（計2回の課題作文点）	「総合日本語」クラスの評価 （平常点＋最終成果物）

「大学で必要とされる日本語文章力の習得をめざす 初級・中級文章表現」（学内印刷）の使用

3. 文章表現指導再考にあたっての方針

- ① 作文を執筆した「後」の添削中心の指導から、執筆「前」・執筆「中」の指導を重視する
- ② 文型・語彙が限られている段階でも、まとまりのある文章が執筆できることをモデル文で示す
文型重視の考え方から文のつながりや段落構成を意識した産出活動へ
- ③ 最終成果物として作成する小レポートの構成（問い→議論→答え）を意識し、初級段階から
3部構成（序論→本論→結論）で考える
- ④ 教員（も学生も）最終到達目標のイメージを明確に持つ（「JLC 日本語スタンダード」の効果）
「文集」⇒「小レポート集」
- ⑤ 結束性に貢献する文法項目、論理的な文章構成、レポートで役立つ機能表現を指導項目とする
※具体的な指導項目の選定と教材化には以下の資料を参考にした。

『初級日本語』・『中級日本語』の文型・語彙

教員による作文のフィードバック

過去の学生が執筆した作文 （レジュメの5の①②参照）

日本人大学生が執筆した「意見文」 （レジュメの5の③参照）

4. 指導項目の具体例

- ① 前置きの「～が」
- ② 連体修飾の効果的な使い方
- ③ 意見文の構成

5. 作文データベースの利用

- ① JLPTUFS 作文コーパス（公開）
- ② JLC 1年コース作文データベース（非公開）
- ③ <参考> 「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」
2007～2010 年度科学研究費補助金「日本語母語話者と日本語学習者の意見文におけるモ
ダリティ使用」研究成果 http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/koukai_data1.html

6. 事例研究：データベースより抽出した産出例（モンゴルの学生による作文）の検討

7. まとめにかえて

- 文章表現指導≠文法・語彙の指導

Lee (2002) : 香港の大学で ESL を学ぶ学生への結束性や文章構造の指導の効果

- 「技能別」の能力だけでなく、「話したり聞いたりして考えをまとめて書く」などの総合力が必要
→特に「読解」とのつながり（執筆しようとしているジャンルの構成知識を学ぶ）

Spack (1997), Hirvela (2004) : 「読み」と「書き」の連動の重要性

- 良い文章のモデルを読み込み、モデルをまねて書く

野村 (2002) : 文章表現の指導の初期においては、型を規範としてあらかじめ提示することが有効

- 添削に力を入れるより、書く前の指導を充実させる

吉田 (2011) : 授業内で、「書きおろし前」の構想、構成支援を充実させることが必要

倉澤・野地 (監修) (2006) : 記述中をとらえて指導するのが効果的

池田・館岡 (2007) : 「先生はいつも僕の知らないきれいなことばで直してくれた。それはとてもいやだった。」「先生が赤ペンでチェックしたものが自分はたくさんある。『なんか私はだめだな』って感じたんです。

【参考文献】

池田玲子・館岡洋子 (2007) 『ピア・ラーニング入門—創造的な学びのデザインのために—』 ひつじ書房

伊集院郁子・横田淳子 (2010) 『『JLC 日本語スタンダードズ』に基づいた中級段階における文章表現指導の試み—『意見文』の指導を中心に—』 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 第 36 号, pp. 85-100
<<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/57680>> (2011 年 9 月 13 日)

倉澤英吉・野地潤家 (2006) 『朝倉国語教育講座 4 書くことの教育』 朝倉書店

野村真木夫 (2002) 「文章構造の指導のために」 『日本語学』 第 21 巻第 5 号, pp. 94-101 明治書院

横田淳子・伊集院郁子 (2009) 『『JLC 日本語スタンダードズ』に基づいた初級段階における文章表現指導の試み』 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 第 35 号, pp. 87-102 <<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/51131>> (2011 年 9 月 13 日)

吉田美登利 (2011) 「意見文産出過程の方略の分析—作文評価が高い学習者と低い学習者の比較—」 『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』 3, pp. 21-32 <<http://www.academicjapanese.org/journal03.html>> (2011 年 9 月 13 日)

Hirvela, Alan (2004) *Connecting Reading & Writing in Second Language Writing Instruction*, Ann Arbor: The University of Michigan Press

Lee, Icy (2002) Teaching coherence to ESL students: A classroom inquiry. *Journal of Second Language Writing*, 11(2), 135-159.

Sparck, Ruth (1997) The Acquisition of Academic Literacy in a Second Language: A Longitudinal Case Study. *Written Communication: A Quarterly Journal of Research, Theory, and Application*, 14 (1), 3-62.

【参考資料】

東京外国語大学留学生日本語教育センター (2006) 「文集」

東京外国語大学留学生日本語教育センター (2010) 「小レポート集」

東京外国語大学留学生日本語教育センター (2010) 「大学で必要とされる日本語文章力の習得をめざす 初級・中級文章表現」

東京外国語大学留学生日本語教育センター教育研究開発プロジェクト「JLPTUFS 作文コーパス」(2011) 『『JLPTUFS 作文コーパス』の構築』